



当社外観写真(愛知県東海市主要拠点)

当社のコア事業：
循環式ブラスト工法・設備の展開

- 本社所在地：愛知県東海市名和町二番割中5番地の1
- 事業概要：橋梁の保全に関する工事・技術開発
- 常時使用する従業員：169人
(2025年3月時点)
- 現在の売上高：83億円(2024年6月期)
- 法人番号：5180001094597
- Web：https://eco-yamadapeint.co.jp/

企業理念・100億宣言に向けた経営者メッセージ



代表取締役
山田 博文

全国展開と技術開発、施工領域の拡張で社会の基盤を再構築

当社は今後5年間で営業拠点を全国に展開し、地域対応と受注拡大を通じて持続的な成長を図ります。また、進行する技能者の高齢化や担い手不足に備え、AI×ロボティクスの基礎研究を進め、橋梁維持作業の半自動化と技能支援環境の構築を目指します。加えて、供給体制が限られる路面工事分野への対応力を強化して、橋梁と路面を一体で請け負える体制を整備します。

これら3つの戦略を国内で同時に進め、蓄積してきた特許技術や施工ノウハウを基盤に、当社主導での開発・体制構築を進めてまいります。段階的な投資と人材育成を進めながら、5年目以降は海外市場への展開にも着手し、日本の高品質な施工技術の価値を世界に広げていきます。

多面的な戦略により、発注者の利便性と業界の持続性に貢献し、売上高120億円の実現を目指します。

売上高100億円実現の目標と課題

2029年に売上高100億円、
2030年、売上高120億円に
向け、年平均成長率6.89%

実現目標



課題

- ・橋梁・路面の施工領域拡張と全国展開の両立
- ・スマート施工技術の開発と寒冷地での実証推進
- ・DX・無人化に対応する開発型人材の確保と育成
- ・研究拠点の整備と産学官連携による開発体制の確立
- ・施工データの蓄積とAI学習環境の構築による自動化技術の確立

売上高100億円実現に向けた具体的措置

目指す成長手段：経営戦略3本柱

- ①全国展開**
国内では北海道・中国・四国・九州への新拠点を設立。海外では2031年の営業開始を目標に、海外現地法人の設立を進めます。
- ②技術開発**
特許技術や環境ブラスト技術の知見を活かし、AI×ロボティクスによる「スマートブラスト」技術の開発を推進。2027年に高度素地技術研究所(仮称)を設立し、2030年の実用化を目指します。
- ③施工領域の拡張**
橋梁に加え路面分野にも展開。技能者の処遇改善と5年間で計7名のDX人材育成を通じ、持続可能な現場力を確立します。

実施体制

各柱にプロジェクト責任者を下記のとおり任命し、部署横断の5名体制でチームを編成します。山田常務が3チームを統括し、月次報告と四半期レビューで進捗を確認の上、方針修正を指示します。

- ①全国展開**
経理部長を任命し、市場調査や関係構築の現場経験を活かします。
- ②技術開発**
開発部長が、産学官連携での技術開発実績を基に指揮します。
- ③施工領域の拡張**
営業部長が、顧客ニーズに基づき、販路開拓を担います。

※本宣言は企業自身はその責任において売上高100億円を目指して、自社の取組を進める旨を宣言するものです

売上高120億円実現に向けた具体的措置

経営戦略3本柱

■売上高120億円実現に向けた経営課題

- ・橋梁・路面の施工領域拡張と全国展開の両立
- ・スマート施工技術の開発と寒冷地での実証推進
- ・DX・無人化に対応する開発型人材の確保と育成
- ・研究拠点の整備と産学官連携による開発体制の確立
- ・施工データの蓄積とAI学習環境の構築による自動化技術の確立

■課題解決に向けた具体的措置（経営戦略3本柱）

以下の各戦略に責任者を任命し、5名編成の部門横断チームとして実施します。

①全国展開：営業体制と市場領域の拡大（現在実施中～2030年）

・営業拠点の全国展開

北海道支店（2026年5月）、中国、四国、九州エリアへ段階的出店。
地域密着型の施工体制と営業基盤を構築します（次項の施工実証拠点として北海道支店を優先）。

・海外展開による事業拡大（営業開始目標：2031年）

次代の成長路線として、既設のベトナム法人を起点に現地法人を設立。市場調査、技術提供、段階的試験施工を経て展開。

②技術開発：施工の高度化と生産性向上

・高度素地調整技術研究所（仮称）の開設（2027年）

無人化・スマート施工を主軸にした研究開発拠点の新設し、AI化による技術の形式知化と波及を図ります。寒冷地（北海道）での施工実証を進め、環境対応力を検証します。

・「スマートブラスト」実用化（2030年目標）

AI画像解析による自動制御機能、クラウド施工履歴管理システムを実装。2025～2027年で基礎実証、2028年～2029年に試験施工を経て、2030年に商用化へ。

③施工領域の拡張：人材戦略と分野拡張

・DX人材の採用・育成（2030年まで継続）

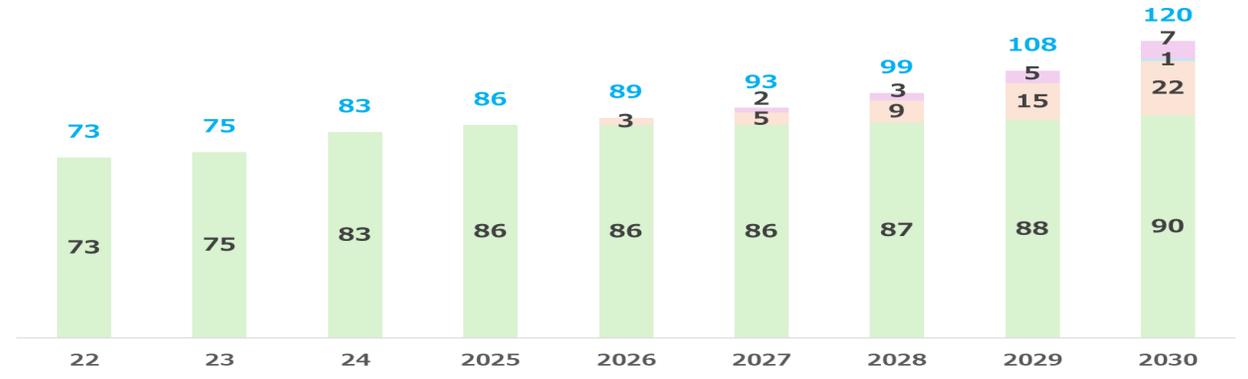
5年間で計7名を雇用・育成。ブラスト作業の負荷軽減・処遇改善を通じて人材の定着を図り、持続可能な現場力を構築します。

・路面工事分野への展開（技術横展開）

有害物質低減型の既存工法を橋梁分野から応用し、施工力を拡張します。市場独占状態にある分野に再参入し、橋梁・路面一体の施工に対応可能な体制を構築します。

売上高の推移（単位：億円）
■ 既存売上 ■ 全国展開 ■ 技術開発 ■ 施工領域の拡張

2030年
120億達成



従業員数の推移（単位：人）

